

## 平成 15 年度 北海道地区大学ガイダンスセミナー 『進化する高大連携—教育接続への期待と課題』参加報告

山崎 哲永

2003年9月19日(金)、北海道大学学術交流会館において「平成15年度 北海道地区大学ガイダンスセミナー」(主催:北海道地区大学ガイダンスセミナー実施委員会, 独立行政法人 大学入試センター)が開催された。

講演『高大連携の展開—入学前教育からキャリア教育へ』(中央大学商学部教授 古本耕三氏)に続き, 大学と高等学校との意見交換の場として二つのシンポジウムが行われた。

シンポジウムⅠは『進化する高大連携—教育接続への期待と課題』と題し, サブテーマ1「数学にける e-learning 教材の開発と利用」(シンポジスト 札幌稲雲高等学校 今井順一氏, 千歳科学技術大学 小松川浩氏), サブテーマ2「スーパーサイエンス・ハイスクールにおける新しい科目の試み」(札幌北高等学校 玉田茂喜氏)の発表と質疑応答が行われた。

本学は, シンポジウムⅡ「教育接続への課題—受験対策と導入・初年次教育」のサブテーマ2「大学における日本語表現・論文指導」にシンポジストとして招待された(シンポジストは山崎, コメンテーターは北広島高等学校教諭 佐藤幸彦氏)。

実行委員からの事前の説明では, 本学の文章教育が, 1. 高校までの教育内容を考慮しつつ, 論理的な文章が書けるようになるために段階的に教育している点, および, 2. 担

当教員が全員, 言語学・日本語学・国語教育等の専門家であることがユニークであるという点を指摘され, 参加を求められた。

当日は, 内容が近接していることから, サブテーマ1「高等学校における国語教育と小論文対策」(シンポジスト 旭川東高等学校 西崎潤一氏, コメンテーター 北海道教育大学 中西信行氏)と合同で行われた。

コメンテーターからの意見では, 本学の教授内容が幾分テクニックに寄りすぎではないかという指摘があり, 高等学校の希望としては, 考える力を付ける教育を充実させて欲しいという意見があった。これに対し本学からは, 「論述・作文」の教育内容には思考力を必要とする教育内容が多く含まれていること, および, 考えの内容は書いて初めて伝わるものであるため, 考えを乗せて伝達するための技術を持つ必要について指摘した。

高等学校との意思疎通が計りきれなかった背景には, シンポジウムⅠに押されての時間不足と, 高等学校側の「テクニック」と本学でいう「技術」の内容と価値判断の違いが関係していると思われる(高等学校側のそれには幾分負の価値観が伴っているのに対し, 本学「論述・作文」でいう「技術」は中立的である)。

フロアからの質問では, 札幌大学 FD 委員会委員長 泉敬史氏より, 札幌大学でも全学的に文章教育を行いたいとの希望があるため, 本学「論述・作文」の開講について, 「国語表現法」時代からの経緯について関心

が寄せられ、加えて、教授内容および履修形態に関する学内での受け止められ方についての熱心な質問があった。さらに札幌北高等学校の玉田茂喜氏からは、本学教科書の寄贈願いがあった。

全体としては、高等学校と大学の教育内容について互いにさらに理解し合うべき点が浮

き彫りになったことが成果であると考え、より実質的な議論のためにはさらに時間が欲しいところであった。

※本学から提出した資料は次ページの通りである（『平成15年度北海道地区ガイダンスセミナー』北海道地区ガイダンスセミナー実行委員会 p. 24 より）